



聖マリアンナ医科大学東横病院

LINK

東横連携だより

地域との
つながりを
大切に

1月
平成29年
第7号

病院 理念

「生命の尊厳とキリスト教の愛の精神」を重んじ、病める人を癒す、愛ある医療を目指します

新年明けましておめでとうございます。

生活習慣病センターの太田明雄です。生活習慣病センターは2015年4月に開設され、もうすぐ2年が経とうとしています。近隣の先生方より多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

さて、平成28年12月1日における中原区の人口は251,500人ですが、まだまだ増加は続いています。今後は高齢者人口も増加し、この地域における生活習慣病や心血管疾患の増加だけではなく、介護問題への対応などが懸念されます。このような流れの中で個々の診療所や病院の努力だけではカバーしきれない厳しい状況に直面すると思われまます。そこで、近隣の先生方との連携を通して一人でも多くの方々の疾患発症を未然に防ぎ、合併症を阻止して行きたいと思

います。例えば、当センターではご紹介頂きました血糖コントロールに難渋する患者さんに対して必要に応じて入院して糖尿病教育を行うだけでなく、介護が必要な患者さんには医療支援の道筋を確定したのち、引き続き先生方にご診療をお願いしております。また、東横病院では新たに脳神経・脳卒中センターとして広範囲な神経疾患も診させていただきます。そして、2017年4月より新たに失神センターも開設され、先生方との病診連携がさらに深化するのではないかと思います。

これからも先生方のご支援を賜り、東横病院の使命を遂行してまいりたいと思ひます。本年も変わらぬお引き立ての程何卒よろしくお願ひ申し上げます。

皆様方にとって素晴らしい年でありまますよう祈念いたしまして、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。



聖マリアンナ医科大学
東横病院
生活習慣病センター長
太田 明雄

診療科の
ご紹介

失神外来



失神外来紹介

心臓病センター 高木 泰

毎週月曜の午後、失神外来を担当している心臓病センターの高木です。「失神」とは「一過性の意識消失の結果姿勢が保持できなくなり、かつ自然に、また完全に意識の回復が見られること」と定義されます。英語では「syncope」と表され、日本語では「気絶」とも言われます。「4人に1人は、人生の中で一度は失神する」と言われており、決して稀な病態ではありません。

欧米では以前から「失神の診断率を上げる」などの目的で、失神を専門的に診療する「失神専門診療ユニット (syncope unit : SU)」が存在しています。当院がモデルと

しているイタリアのSUは、2011年の時点でイタリア国内47施設（現在では71施設）あったのに対し、当時日本では失神を専門的に診療する施設は皆無に等しい状態でした。そのような中、イタリアに留学し失神を学んできた古川俊行医師（聖マリアンナ医科大学循環器内科講師）によって、大学病院としては日本初となる「失神外来」が2012年4月聖マリアンナ医科大学病院に開設されました。現在では日本各地から多くの失神患者さんが来院するようになったため、交通の便が良好で、以前から精査入院する失神患者さんの診療に参加してきた当院でも、2016年8月から失神外来を開設しました。

「診断がつかないまま失神発作を繰り返す患者さんの不安を取り除き、患者さんの生活の質（QOL）を改善する」ことを最大の目的として日々診療に取り組んでいますので、失神患者さんのご紹介、よろしく願いいたします。

診療科の
ご紹介

専門外来一覧

平成29年1月現在

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
消化器外科		腫瘍内科 (AM・PM) 小倉 孝氏				
消化器内科					肝臓疾患外来 (PM) 医局員交代制	
循環器内科	失神外来 (14:00～16:00) 高木 泰	SAS外来 (14:00～) 吉田 浩幸		SAS外来 (第2,4,5の14:00～) 吉田 浩幸	SAS外来 (14:00～) 関塚 宏光 ペースメーカー (PM) 徳丸 睦	禁煙外来 (AM)
心臓血管外科		下肢静脈瘤外来 (第2・4PM) 千葉 清、桜井 祐加			心臓血管外科 (第2・4PM、外来診療のみ) 医局員交代制	
脳卒中科	セカンドオピニオン (15:00～17:00) 植田 敏浩			頭痛外来 (PM) 野越 慎司	物忘れ外来 (PM) 吉江 智秀	
脳神経外科		ボツリヌス治療 (14:00～) 小野 元、野越 慎司	脳血管内治療 (AM) 植田 敏浩			
リウマチ内科	(AM・PM) 菱山 美絵					

診療時間 AM 8:30～11:00
PM 13:30～16:00
土曜日は第2、4、5の午前中のみです

※専門外来は基本的に事前予約制になっておりますのでご了承ください

臨床検査室についてのご紹介

大泉 節子

臨床検査室について

臨床検査技師、看護師、事務職員など総勢約 20 人のスタッフで検体検査・輸血検査・生理機能検査・健診センター・採血室の業務を行っています。緊急検査項目は 24 時間対応しています。

生理機能検査

超音波、心電図、ABI/PWV、ホルター心電図、トレッドミル運動負荷心電図、呼吸機能、脳波、PSG、骨密度、体組成測定などを行っています。

医師の判読が必要な検査項目に関しては、概ね 1 週間程度（PSG は解析に時間を要するため 2 週間程度）での報告を目標にしています。

医療支援・連携室を通しての紹介予約検査件数は直近の 3 年間で約 1.4 倍に、ことに、PSG は大きく増えております。

検体検査

生化学、血算、尿検査、免疫、感染症、POCT、輸血など採取検体の 85%以上を院内で分析し、報告しています。



時間帯や検査項目にもよりますが、1 時間以内の結果報告を目標にしています。日々の内部精度管理、機器点検に加え外部精度管理にも参加し検査値の信頼性・正確性の向上に取り組んでいます。

健康診断センター

人間ドック（企業健診）、レディースドックなど様々な健診に対応しています。

SAS 外来での医師サポートと CPAP 療法患者さんへの対応、ICT の感染対策活動など検査室以外の業務も積極的に行っています。さらに専門的知識のスキルアップを目指し、超音波検査士など各種専門認定取得者も増えています。

院内での検査件数も増えており、以前より予約が取りづらい場合があるかと思われませんが、効率的に機器を運用するなど少しでも予約が取りやすくなるように取り組んでいます。今後ともよろしくお願いたします。



緊急のご紹介について

当院は救急指定病院として地域住民や地域医療に貢献すべく、各センターがホットラインを備え、救急隊や近隣の医療機関からの要請に対し 24 時間 365 日体制で的確な診断、迅速な治療を行うための体制を整えております。

医療機関専用・各センターホットライン（医師直通）
各センターの医師が直接対応いたします（24 時間）

脳神経・脳卒中センター 080-5498-9536

心臓病センター 080-5498-9493

消化器病センター 080-5498-9516

救急外来 連絡先

TEL : **044-722-2121** (代表)

救急外来 FAX

FAX: **044-722-1771** (救急外来)

通常の診療・検査予約

TEL : **044-722-2216**
(医療機関専用・連携室直通)

・まずお電話にてご希望日時の相談を賜り仮予約をお取りいたします

FAX : **044-733-6658**
(医療機関専用・連携室直通)

・仮予約後、紹介状 (FAX 用) を FAX 送信してください

・本予約後、予約票を返送いたします
※原則 30 分以内に返送いたします

電話・FAX 対応時間

平日 8 : 30 ~ 17 : 00
土曜日 (第 2,4,5) 8 : 30 ~ 12 : 00

※FAX は 24 時間稼働しておりますが、時間外の FAX 返送対応は、翌日又は休診日明けとなりますので、ご了承くださいませ
ようお願い申し上げます。

お知らせ

「医療連携講演会」のご案内

当院では、隔月第 2 木曜日 19 : 30 (講演 19 : 45 開始) より医療連携講演会を開催しております。

当院各センターのトピックスのご紹介や、ご紹介いただいた患者さんのその後の経過などをご報告させていただきます。

新年度の講演予定につきましては、詳細が決定次第「東横連携だより LINK」及び病院ホームページに掲載させていただきますので、ぜひスタッフの皆様とともにご参加いただければと存じます。

月日	センター	担当医	演題名	場所
3月9日(木)	消化器病	吉田 良仁	当院の内視鏡治療関連	当院管理棟 5 階 カンファレンス ルーム
	心臓病	高木 泰	失神外来を始めてみて思うこと	

※日時や講演者は変更となる場合がございますのでご了承ください。

お問合せ先 医療支援連携室 (9:00 ~ 17:00) TEL (直通) : 044-722-2216 TEL (代表) : 044-722-2121

聖マリアンナ医科大学東横病院

〒211-0063 神奈川県川崎市中原区小杉町 3-435

TEL:044-722-2121 (代表)

TEL:044-722-2216 (医療機関向け・連携室直通)

FAX:044-733-6658 (連携室直通)

東横病院

検索

編集
後記

あけましておめでとうございます。今年新しい連携システム導入を控え、当院にとりましても希望の年の幕開けです。病診連携の内容の幅が広がり、皆様との距離が一層近くなる事を連携室一同期待しております。当院では定期的に連携だより「LINK」を発行しております。誌面に取り上げて欲しい事など、ご意見をお寄せいただきましたら積極的に反映していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。(MM)

平成 29 年 1 月第 7 号発行 発行元：医療支援・連携室連携便り編集委員